

大いに疑え

学長 島田 修三



父を疑え、母を疑え、師を疑え、人を疑え、しかし疑う自分を疑うな—今は亡き作家開高健の随筆で目にしたことばですが、開高によれば、インドに伝わる古いことばだそうです。ヒンドゥー教の經典なのか、『ラーマーヤナ』のような詩集なのか、出典は定かではありませんが、おそらく自立していこうとする若者に向けたことばなのでしょう。いろいろな解釈が可能な含蓄深いことばですが、私はこんな風に解しています。

疑うということは、納得できないから背を向けてしまうということではありません。それが正しいかどうかを自分のありったけの力で考えぬくことです。力不足と感じたら、本を読めばいい。人の意見に耳を傾ける。疑う対象について、できるだけ客観的なメモを書きつづる。そうやって考えぬき、揺るがぬ間いそのものとなったとき、今まで知らなかった自分自身と出会うはずです。疑うことが、成長そのものとなる新鮮な季節を皆さんは生きているのです。大いに世界を疑ってください。